

医学科授業に対する授業データ分析システムの内製開発

寺坂尚起

香川大学医学部学務課教務係

1. 背景・現状

- ・医学科授業の学内委員会資料作成業務が年数回あり、資料作成に際し、図1に示したMicrosoftのFormsを使用し、教員や学生のアンケート（評価・出席）を提出してもらっていた
- ・データをまとめるためにExcelを用いていたが、転記に手間がかかることや、せっかく収集したデータが資料作成以外に活用されていないことが課題だった。

内製開発の動機：

既存の仕組み（Forms）を活用し、手間なくデータを集計でき、データを活用できる仕組みを作りたい



図1



図2

2. システム概要

転記の手間を省くには、

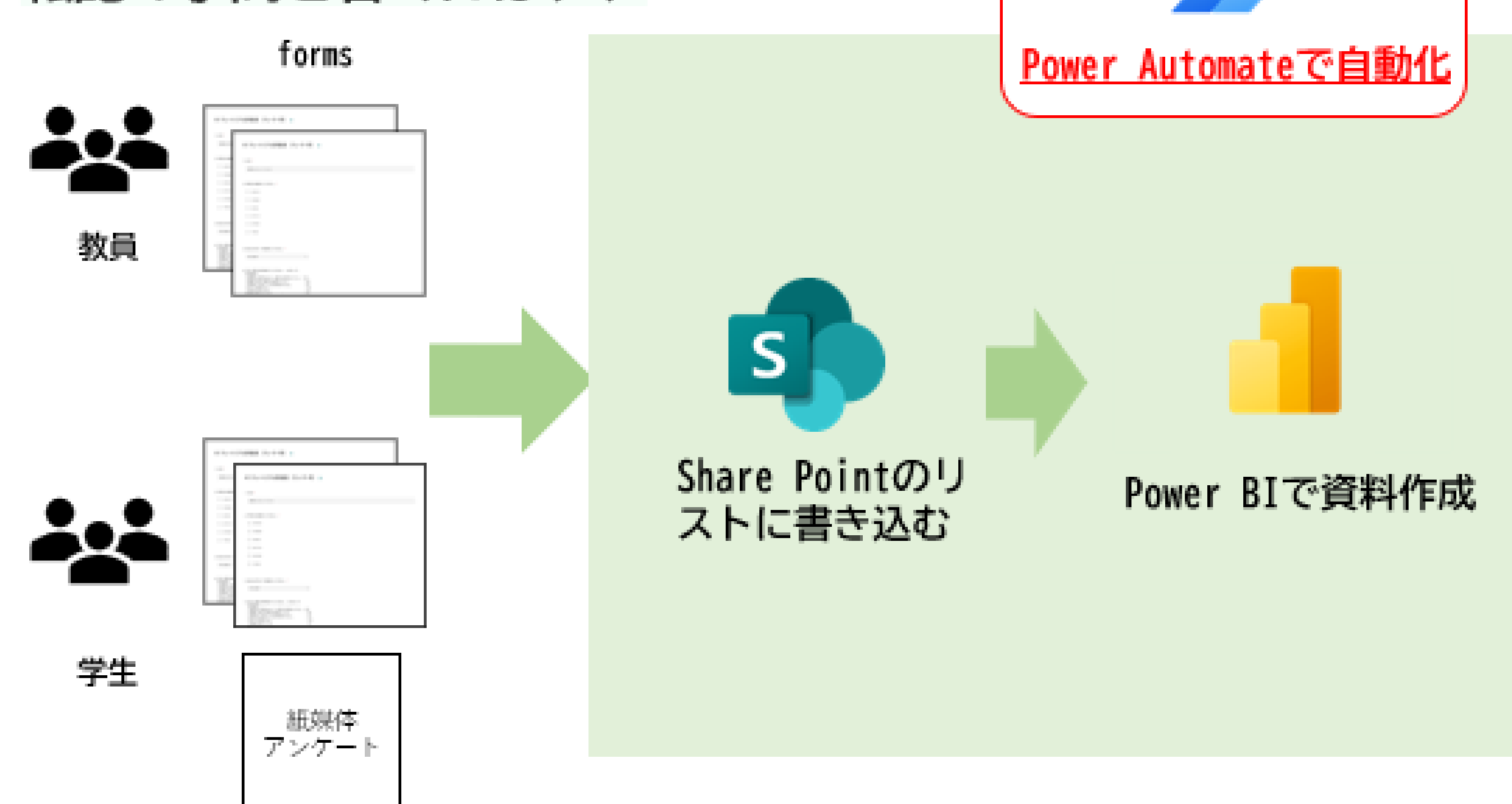


図3

図3にシステム構築後のフローを示す。Power Automateを活用し、データがShare Pointのリストに格納されるようにした。

- 以下に処理の流れを示す（※赤色は新たに構築）
- ①学生は授業出席確認・自己成績評価をFormsにて入力する
 - ②学生の入力データをShare Pointのリストに書き込む
 - ③Power BIでデータを可視化（データは更新可能）

3. まとめ

- ・今回は補足資料として作成したが、今後はPower BIを用いた資料が主流になれば良いと感じた
- ・資料の見やすさ（デザイン性）にこだわることができた
- ・Microsoftのツールについての知識・理解が深まった（得ることができた）ので、今後も他の業務で使用できそう

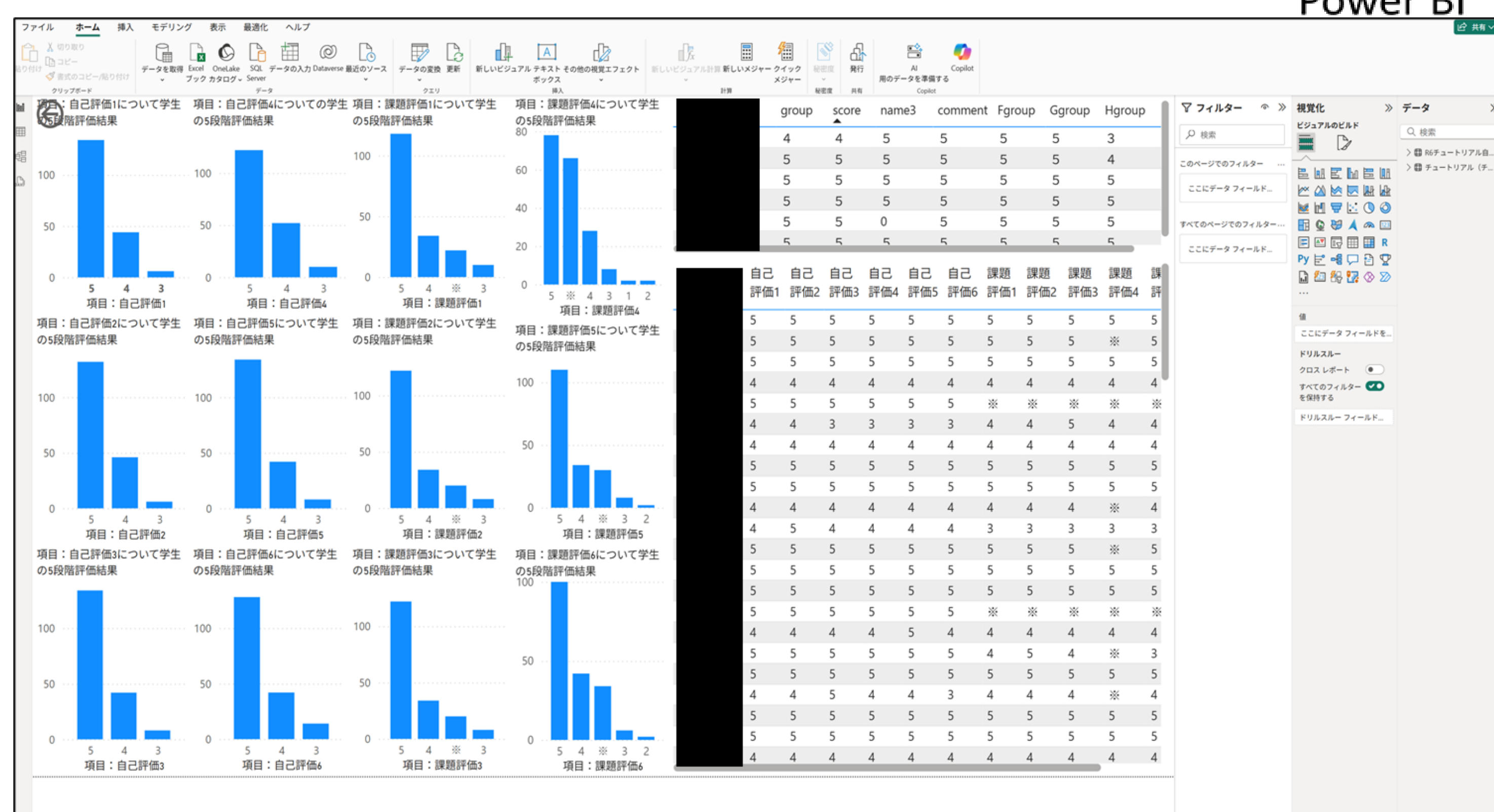


図4

図4に完成したPower BIの画面を示す。

【Power BIを用いてよかった点】

- ・FormsからExcelにデータを転記する手間を省くことができた
- ・転記によるヒューマンエラーがなくなった
- ・データを更新可能なので、事務作業が楽になった
- ・グラフなどを用いることができるので、一目でわかりやすい表を作ることができた

4. 今後の展望

- ・今後も現在の業務の中で資料作成をする際には生かしていきたい
- ・現状、可視化しても深い分析までは行っていない
→Power BIの機能を用いて、委員会でもより多角的に分析し、データに基づいて判断や方向性を決めていければよい

